

Learning design approaches of the national nursing examination for foreign EPA nursing candidates

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-01-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056521

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



学 位 論 文 要 旨

Dissertation Abstract

学位請求論文題名 Dissertation Title

経済連携協定に基づく外国人看護師候補者に対する看護師国家試験受験のための学習デザイン

(和訳または英訳) Japanese or English Translation

Learning design approaches of the national nursing examination for foreign
EPA nursing candidates

人間社会環境学 専 攻 (Division)

氏 名 (Name) 加藤敬子

主任指導教員氏名 (Primary Supervisor) 深澤のぞみ

(注) 学位論文要旨の表紙

Note: This is the cover page of the dissertation abstract.

This study investigates what kind of learning instruction Japanese language teachers can provide to assist foreign nursing candidates through the Economic Partnership Agreement to not only pass the National Nursing Examination, but also to work for many years in Japan after passing the exam. First, I investigated the causes of incorrect answers of candidates on the National Nursing Examination. The results revealed that in addition to mistakes caused by having a lack of specialist nursing knowledge, the difficulty of vocabulary, abbreviated subjects, mistaking subjects for objects, errors in lifestyle habits, etc. comprise difficulties in the National Nursing Examination for candidates. Therefore, I developed a textbook to overcome these difficulties. And in addition to that, I interviewed hospital staff members responsible for EPA to investigate the current state of learning of candidates and how to instruct candidates. Moreover, it was found that even if the EPA nursing candidates pass the National Nursing Examination, the EPA nurses do not have enough ability to respond appropriately to patients. Finally, I examine what Japanese language teachers can do in the nursing field and propose learning design approaches for Japanese language teachers in the nursing field.

1. 研究の目的

2008 年より始まった経済連携協定（以下、EPA）に基づく看護師候補者の受入れは、看護師候補者が受入れ機関で就労・研修しながら、原則 3 年以内に看護師国家試験に合格し、日本で看護師の資格を取得するというものである。看護師資格取得後は、正看護師として期限に限りなく、就労することができるが、看護師国家試験に合格できなければ、帰国を余儀なくされることになっている。看護師候補者の看護師国家試験の合格率は、年々上昇してきてはいるものの、20%に満たないのが現状であり、日本人の看護師国家試験合格率 90%と比較すると、極めて低いことが問題視されてきた。

そこで、本研究の目的は、EPA に基づく看護師候補者が、看護師国家試験に合格するのみならず、合格後も日本で末永く就労するために、日本語教師の立場からどのような学習指導ができるのかを探求し、各病院へ配属後の日本語学習デザイン（図 1 点線内の日本語学習）を考えることである。

2. 研究課題

看護師候補者が日本語で書かれた看護師国家試験に合格するためには、看護師国家試験

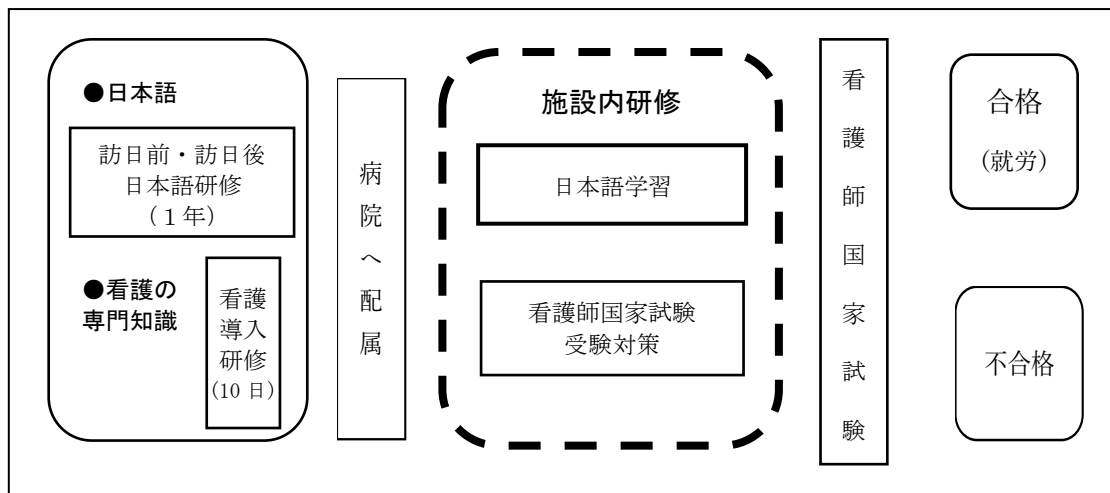


図1 EPAによる受入れでの看護師候補者の学習デザイン

問題に書かれている内容を正確に読み解く日本語力、および、看護の専門知識を日本語で習得する必要がある。そこで、本研究では、下記の3つの研究課題を設定した。

課題1. 看護師候補者にとっての看護師国家試験の困難な点は何なのか。誤答原因は、

専門用語を含む語彙の難しさだけではないのではないか。

課題2. 看護師候補者の看護師国家試験に対する困難点を踏まえると、どのような学習

および支援方法が効果的なのか。

課題3. 看護師国家試験合格後の将来をも見据えて、看護師国家試験合格前の学習期間

にどのような学習デザインが必要となるのか。

3. 看護師候補者に対する調査1 (看護師国家試験の誤答原因調査)

課題1に対して、EPAで定められている3年間で合格できなかった看護師候補者の躓きの原因を調査し、その誤答原因の分析を通し、看護の専門知識以外で日本語の側面から看護師候補者にとっての看護師国家試験の困難点を探った。

その結果、語彙では母語話者なら特に問題にならないような「吸い殻」「戸締まり」のような一般語、症状の表現である「のぼせ」「こわばり」のような単語でも専門分野の辞書に記載されていない語、設問文に使用されている「助長する」「逸脱する」の意味、「常勤」「非常勤」という日本の勤務形態の表現などが理解できていなかった。また、助詞に注意を向けていないもの、省略された主語、および、動作主と行為の受け手の関係など文章の読み取り

の間違いが原因で、専門知識が生かせないものがあった。さらに、学習者が持つ背景知識が誤答の原因になっているものも見受けられた。一方、看護師国家試験の試験問題自体にも表現上の困難な点が見つかった。

そこで、これらの困難点を克服させるため、積極的に医療関係の症例を扱った記事などを用い、医療・看護分野で使われる語彙を習得させたり、日本の医療現場の理解や、患者の心情を一緒に考えたりすることが重要であると主張した。そして、受入れ施設へ配属後も引き続き日本語教師が看護師候補者の指導に関わる必要性を強調した。

4. 看護師候補者に対する調査 2 （教材開発および試用調査）

課題 2 として、誤答原因調査から浮かび上がった困難点を克服するために日本語教師が使用する教材を開発し、2 度にわたり試用調査を実施し、教材の精度を高めた。

本教材は、患者、家族および医療従事者から投稿された医療現場での出来事、および、それに対する感想などを述べた投稿記事を用いた読解教材である。投稿記事の内容把握のみならず、実際に投稿記事に書かれた場面をロールプレイで疑似体験し、患者の心情を考えさせ、看護師としての対応力をつけさせるまでを 1 つの教材の中に取り入れている。

本教材の意義として、2 点述べる。1 点目は、医療現場での状況の把握、および情報収集における意義、2 点目は、医療現場での患者や家族とのコミュニケーションにおける意義である。

まず、1 点目の医療現場での状況の把握、および情報収集における意義に関しては、患者や家族から情報を収集する際、患者および家族の話には、省略が生じる、出来事が時系列に整理されていない等、困難な点が予想される。そのような患者の話を整理して聞く能力を身につける訓練が必要である。本教材で状況を把握する練習を通し、どこに注意を向けて話を聞けばよいかを学ぶことができ、実際の医療現場で患者の話を聴取する際、応用することができる。

次に、2 点目の医療現場での患者や家族とのコミュニケーションにおける意義に関しては、試用調査において、ロールプレイを行った際、どのような声かけをすればいいのか、わからないことが多かった。このような場合、コミュニケーション不足の原因を、日本語能力が低いことに集約され、会話練習、声かけ練習をすることがあるが、今回は未経験や、死生観・看護観の違いから、対処方法がわからず、対応できなかった。それを講義で知識を与えるだけでは不十分で、ロールプレイなどを通して、具体的な方法を体験してはじめて、経験的知

識となり蓄積されていく。さらに、医療現場で同様の状況下におかれた場合、動揺せずに速やかに対応し、適切な言語表現を使用し、非言語的コミュニケーションも実践できることが重要であり、本教材はそのための訓練の役割を果たす。

5. 看護師候補者の研修担当者に対する調査（受入れ病院調査）

課題 3 に対しては、これまでに看護師候補者を看護師国家試験合格へと導いた経験のある病院の研修担当者に対し、インタビューを実施し、病院へ配属後の施設内研修での効果的な学習指導方法を探った。

その結果、日本語の学習指導に関して共通していることは、外部の日本語教師の指導者がいること、就労時間内に定期的に日本語学習の時間を取っていることが挙げられる。学習指導内容は、既習の一般日本語のテキストを使用しての復習、日本語能力試験 N3 対策、日常会話、看護師候補者が書いた文章の添削などであった。

次に、看護師国家試験受験のための学習指導に関しては、今回インタビューに協力してくれた病院では、様々な工夫が見られたが、一つの学習システムとして一般化することは困難であった。しかし、このインタビュー結果の共通点を踏まえ、個別のケースを参考にするることにより、看護師候補者を看護師国家試験合格に導くための学習デザインとして、次の 5 点が重要であると考ええる。

1 点目は、病院側の指導体制を整えることである。施設内研修として学習時間、学習場所、看護の専門家の学習指導者を確保し、学習指導計画を立てる必要がある。

2 点目は、看護師候補者が各病院に配属後、看護師候補者が受入れ病院の環境、および、病院周辺の生活環境に早く慣れるように支援することである。

3 点目は、教材、および、インターネット等の学習環境を整えることである。

4 点目は、自律学習ができるように指導することである。学習指導者から教わるだけでなく看護師候補者が主体的に学習するよう指導する必要がある。

5 点目は、看護師候補者のモチベーションを維持させることである。

しかしながら、今回のインタビューを通し、問題点も明らかとなった。それは、看護師候補者は看護師国家試験に合格したからといって、日本人の新人看護師と同等の仕事こなせるわけではないということである。看護技術においては、問題はないが、指示が聞き取れない、あるいは、指示を聞き間違える、患者および家族への対応が 1 人では困難であるなどの問題点が残されていた。

つまり、看護師国家試験合格後の EPA 看護師としての本格的な就労を見据えた指導という点から考慮すると、看護師国家試験合格のみを目的とした学習指導では不十分であるということが明らかとなった。

6. 看護師候補者のための学習デザイン

前掲の図 1 の点線で囲んだ施設内研修の日本語学習は、現在は各病院に一任されている。受入れ病院調査でわかったように、看護師国家試験受験対策のみでは、看護師国家試験合格後の就労を考えると不十分であった。しかも、看護師国家試験合格まで 2～3 年間あるにもかかわらず、病院配属前の 1 年間で伸ばしてきた看護師候補者の日本語力を、その後どのように伸ばせばいいのか、日本語の学習デザインが明確になっていない。そこで、筆者が提案する学習デザインは、この点線部分の日本語学習を強化することである。

具体的には、①日本語教師が看護師候補者の日本語力を看護の場面で使えるように指導する。そのために日本語教師が使用する看護分野の教材を開発した。②病院へ配属前に習得した看護師候補者の日本語を、理解レベルから使用レベルにまで伸ばす。③単なる知識として教えるのではなく、経験的知識として蓄積し、必要なときに引き出し、看護の場面で対応できるように指導する。④看護師候補者の日本語力の個人差を考え、看護師候補者のライフサイクル（結婚、出産、育児）の中で、個別に学習計画を立てて指導する。⑤看護の専門知識は、日本語教師が指導するのではなく、看護師候補者の疑問にきちんと答えられる看護の専門家に任せる。

これにより、EPA のスタート時点から伸ばしてきた看護師候補者の日本語力を継続して伸ばすことができるが、その際重要なことは、看護の専門家と日本語教師が連携し、情報交換を行いながら、協働で看護師候補者を指導することである。

7. 本研究の成果と専門日本語教育

春原（2006）は、専門日本語教育とは、将来のための準備をする場ではなく、〈今・ここ〉に生きる世界のさまざまな課題に対して、とくに言語問題の切り口から取り組む領域であると定義している。さらに、専門日本語は、何事かをなすための、何者かになるための言語活動であると述べ、看護日本語を学びつつ、医療現場で働くことで看護師となり、観光日本語を習いつつ、日本人観光客を案内することで観光ガイドとなっていくという。

しかし、現在、看護師候補者への日本語教育を考える際の学習デザインが明確になってい

ない。教材も、教授法も確立されていない看護分野において、看護の専門家ではない日本語教師が、看護師候補者に何を教えればいいのか。看護師国家試験の内容でもなく、日本語能力試験 N1・N2 の内容でもないとするならば、一体何を教えることができるのかを模索してきた。〈今・ここ〉に生きている看護師候補者が、〈今・ここ〉の世界で自立した看護師となるため、日本語教師として何ができるのかを検討した。

そして、筆者が今回採った手法は、看護師候補者の看護師国家試験の合格率が低いということから、看護師候補者の看護師国家試験の誤答原因を調査し、専門知識以外で看護師候補者にとっての困難点を調査したことだった。この手法は、これまでの日本語教育で行われているレディネス調査やニーズ調査、目標言語調査からでは見えてこない看護師候補者の問題点を把握することができた。看護師候補者との対話を通し、看護師候補者にとって何が難しく、どのような点で躓いているのか、その原因を追及した。それを基に、看護師候補者の日本語力を向上させるための専用の教材が必要だと考え、日本語教師が使用できる看護場面を扱った教材を開発した。この手法は、看護の専門分野のみならず、他の分野においても活用できるであろう。つまり、各専門分野において、学習者が何ができずに困っているのかを、学習者との対話を通して把握することが第一である。その上で、その困難点を克服するため、各専門分野の就労現場での指導方法を考えていくべきであろう。

参考文献

春原憲一郎（2006）「専門日本語教育の可能性—多文化社会における専門日本語の役割—」『専門日本語教育』8, pp. 13—pp. 18

学位論文審査報告書

2019 年 7 月 5 日

1 論文提出者

金沢大学大学院人間社会環境研究科

専攻 人間社会環境学専攻

氏名 加藤 敬子

2 学位論文題目（外国語の場合は、和訳を付記すること。）

経済連携協定に基づく外国人看護師候補者に対する看護師国家試験受験のための
学習デザイン

3 審査結果

判定（いずれかに○印） ○合格 ・ 不合格

授与学位（いずれかに○印） 博士（社会環境学・文学・法学・経済学・○学術）

4 学位論文審査委員

委員長	深澤のぞみ	⑩
委員	加藤 和夫	
委員	高山 知明	
委員	吉川 一義	
委員	森山 治	
委員		

（学位論文審査委員全員の審査により判定した。）

5 論文審査の結果の要旨

本研究は、経済連携協定（以下、EPA）に基づく外国人看護師候補者（以下、看護師候補者）が、看護師国家試験に合格するために、日本語教師の立場から見た学習デザインを探究したものである。

EPA に基づく看護師候補者の受け入れは 2008 年から開始され、現在もインドネシア、フィリピン、ベトナムからの受け入れが続いている。この制度は、母国で看護師の資格を取得し看護師としての経験がある者から選考し、EPA 看護師候補者として日本の高齢者施設や病院などで就労および研修しながら、看護師国家試験合格を目指し、合格後は日本で就労させようとするものである。受け入れ期間は原則 3 年で、国家試験合格後は正看護師として期限に限りなく就労することができるが、3 年以内に合格ができないと帰国を余儀なくされる。2009 年からの看護師国家試験合格率は少しずつ上昇しているものの、2018 年でも 17.7%であり、日本人の合格率がほぼ 90%前後であることを考えると、極めて低い結果となっている。

本研究は、もともと看護師の資格を持っている看護師候補者が何故国家試験に合格できないのかを調査し、看護師候補者の困難点を踏まえた学習方法や支援方法を検討する。その上で、

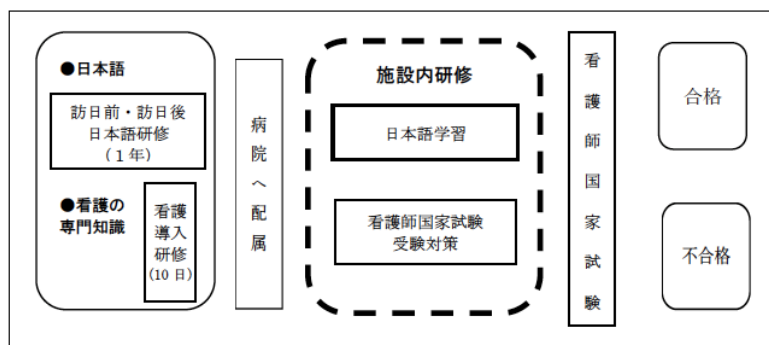


図1 EPAにおける学習デザイン

看護師国家試験合格後の将来も見据えて、各病院へ配属後の日本語学習として（図1点線内の日本語学習）どのような学習デザインが必要なのかを検討し提案したものである。

本論文では以下のような3つの研究課題を設定している。

課題1. 看護師候補者にとっての看護師国家試験の困難な点は何なのか。誤答原因は、専門用語を含む語彙の難しさだけではないのではないか。

課題2. 看護師候補者の看護師国家試験に対する困難点を踏まえると、どのような学習および支援方法が効果的なのか。

課題3. 看護師国家試験合格後の将来をも見据えて、看護師国家試験合格前の学習期間にどのような学習デザインが必要となるのか。

以下、これらの課題に触れながら、概要を述べていく。

まず第1章では研究の背景として、日本の現在の人口構成と外国人労働者の受け入れ状況、さらに医療・福祉分野での外国人材受け入れについて論じている。第2章で、本論文で扱う経済連携協定（EPA）に基づく看護師候補者の受け入れについての詳細を説明し、さらに第3章で日本における外国人の医療就労を概観し、その中での看護師候補者の位置づけを考察している。第4章では看護師国家試験の概要を述べた上で、看護師候補者の国家試験の合格率の推移や問題点を検討している。第5章では、看護師候補者にとっての看護師国家試験の諸課題を、先行研究に触れながら紹介している。さらに国家試験合格後の医療就労における支援の内容を扱った研究についても取り上げ検討している。

第6章からは、前述の3つの課題を検討するための調査について述べた部分である。

まず第6章では、看護師候補者に対する調査1として、看護師国家試験の誤答原因調査を行った。EPAで定められている3年間で合格できなかった看護師候補者のつまづきの原因を調査し、看護の専門知識以外の日本語に関する困難点を探った。その結果、日本語の文法項目や語彙・表現としては重要性が見逃されがちな項目の習得が不十分であったために、文章の読み取りができず、看護師候補者が持っているはずの専門知識が生かせていないなどの問題が明らかになった。さらに学習者の文化的背景が誤答の原因になっているものも見受けられた。

第7章では、看護師候補者に対する調査2として、教材開発およびその試用調査について述べている。課題1の誤答原因調査から浮かび上がった困難点を克服するために教材を開発し、2度にわたり試用調査を実施し、教材の精度を高めた。本教材の意義で強調されるのは、講義で知識を与えるだけでは不十分な事柄について、教材で示された場面でのロールプレイを通して、具体的な方法を体験し、それが経験的知識となることを目指したということである。

第8章では、看護師候補者の研修担当者に対する調査として、受け入れ病院の研修担当者インタビュー調査を行った結果について述べている。この結果をまとめ、看護師候補者を看護師国家試験合格に導くための学習デザインとして、病院側の指導体制を整え、看護師候補者の学習環境を整えること、自律学習ができるように指導すること、そして、看護師候補者のモチベーションを維持させるなどが重要であるとしている。しかし、このインタビューを通し、看護師候補者は看護師国家試験に合格した後も、日本人の新人看護師と同等の仕事をこなせるわけではないという重大な問題点も明らかになった。つまり、看護師国家試験合格後の本格的

な就労を見据えた指導という点からは、看護師国家試験合格のみを目的とした学習指導では不十分であるということが浮かび上がったのである。

第9章では、これらの結果を基に、看護師候補者のための学習デザインについて論じ、さらに看護の専門分野における日本語教育への提言を行っている。施設内研修の日本語学習（前掲の図1の点線で囲んだ部分）は各病院に一任されているが、特に、日本語教師が看護師候補者の日本語力を看護の場面で使えるように指導することや、病院へ配属前に習得した看護師候補者の日本語を、理解レベルから使用レベルにまで伸ばし、経験的知識として蓄積し、実際に看護の場面で対応できるように指導することが重要であると主張した。看護の専門家と日本語教師が連携し、情報交換を行いながら、協働して看護師候補者を指導することの重要性も強調している。

最終章の第10章では、各章のまとめを行い、今後の課題について述べている。この章では、本研究の専門日本語教育における意義にも触れている。専門日本語教育の役割の1つは、実際に就労を目指す学習者に対して、自立して仕事ができるようになるための日本語教育を行うことであるが、日本語教師として何ができるのかを探った本研究は、看護師候補者に対する専門日本語教育だけでなく、これから多くなるであろうと思われる「特定技能」による外国人就労者などを受け入れる機関でも応用が可能であるとしている。

審査委員からは、本論文で提案された学習プログラムを、現行の枠組みの図に、析出された課題と対応する形で組み込めたらさらによくなるのではないかという意見もあったが、本研究は正看護師と日本語教師と両方の資格を持つ筆者の強みが活かされた内容であり、日本語を学ぶことと、それを実際に活用する看護の現場をどうつなぐかを明らかにした研究である点、今後日本が受け入れていく外国人就労者のキャリアパスと日本語学習との関連の重要性を明らかにした点などが高く評価された。

以上のことから、本論文は博士学位論文の水準に十分に達しているものとして、審査委員全員一致で合格と判定した。